

令和元（2019）年度卓越大学院プログラム審査結果

機関名	金沢大学		
プログラム名称	ナノ精密医学・理工学 卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	大竹 茂樹	プログラムコーディネーター	華山 力成

【採択理由】

ナノレベルでの理解・制御による革新的予防・診断・治療法の創出を担う「技術に強いナノ精密医学プロフェッショナル」・「医学に強いナノ精密理工学プロフェッショナル」の育成を目的とし、実績がある学内研究拠点を活用し複数研究科が連携して実施するプログラムであり、医学と理工学のマルチディシプリンの人材、現場を熟知しているスペシャリスト、多様なバックグラウンドを持つグループの中でHub的な役割を担う知のプロフェッショナルという3つの資質を兼ね備えた卓越した人材の育成が期待できる。

金沢大学は原子間力顕微鏡（AFM）の技術開発やAFMを活用したナノバイオサイエンス分野において世界をリードする研究成果を多数生み出しているほか、平成29（2017）年には「ナノ生命科学研究所（NanoLSI）」が世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）に認定されており、この分野における卓越性が認められる。実績のあるNanoLSIと連携した内容であることや、NanoLSIアソシエイトという構想も魅力的であり、関連する分野を目指す学生に対する訴求力があるプログラムである。

金沢大学では学長の強いリーダーシップの下、大学全体の改革構想である「新YAMAZAKIプラン2018」を策定しているが、本プログラムは大学院改革の方向性にも合致しており、マネジメント体制も確立している。また、プログラム評価指標としてインプット、アウトプット、アウトカムがそれぞれ明確かつ具体的に設定され、「プログラムとして設定する検証可能かつ明確な目標」に反映されている点も評価できる。資金計画の面では、学内資金だけでなく、クラウドファンディングの利用、競争的資金の間接経費など、財源多様化の努力がなされている。

ダブルメジャー制度の導入、共通カリキュラムであるプログラム基盤課程の設置、修了者の同窓会組織であるNanoLSI Associationの構想など、大学院全体の改革を先導する内容になっている。特にダブルメジャー制度に関しては、AFMの活用を軸にして、「技術に強い精密医学プロフェッショナル」と「医学に強いナノ精密理工学プロフェッショナル」という人材輩出を通じて、大学院全体に広げていくことが期待される。